

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778 長期継続特殊前兆 続報 現況報告

明確なPBF前兆出現継続時間計から示唆される推定規模

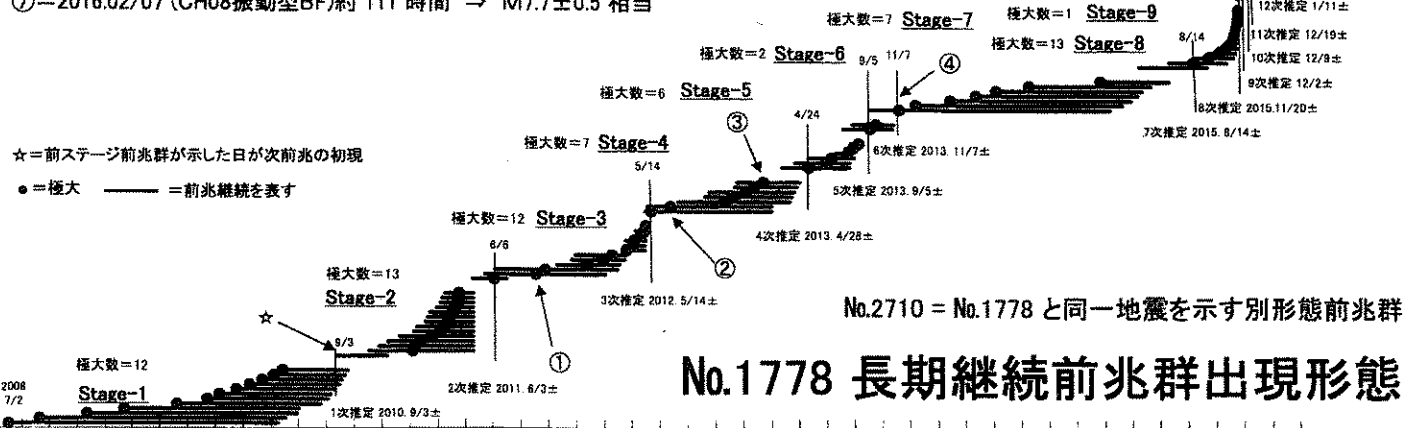
PBF(振動型BF)出現継続時間計=PBF(h) 断層長=L(km) 規模=M
経験式 PBF(h)=L(km) Log PBF=0.5M-1.8

番号	出現日(出現観測装置)	出現継続時間計	推定規模(相当)
①	2011.09/04 (CH20)	約 100 時間	M7.6±0.5 相当
②	2012.06/27 (CH23/CH16)	約 120 時間	M7.8±0.5 相当
③	2013.01/14 (CH09)	約 140 時間	M7.9±0.5 相当
④	2013.11/11 (CH15)	約 120 時間	M7.8±0.5 相当
⑤	2015.12/21 (CH08振動型BF)	約 108 時間	M7.6±0.5 相当
⑥	2016.01/13 (CH32振動型BF)	約 114 時間	M7.7±0.5 相当
⑦	2016.02/07 (CH08振動型BF)	約 111 時間	M7.7±0.5 相当

No.2710 & No.1778 共通 Stage

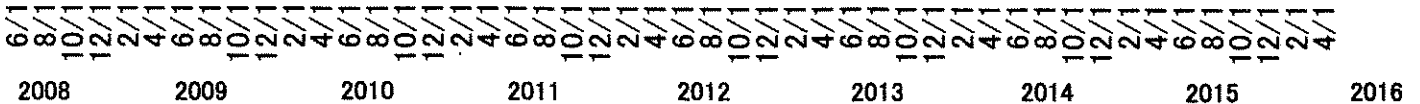
No.2710

現在



No.2710 = No.1778 と同一地震を示す別形態前兆群

No.1778 長期継続前兆群出現形態



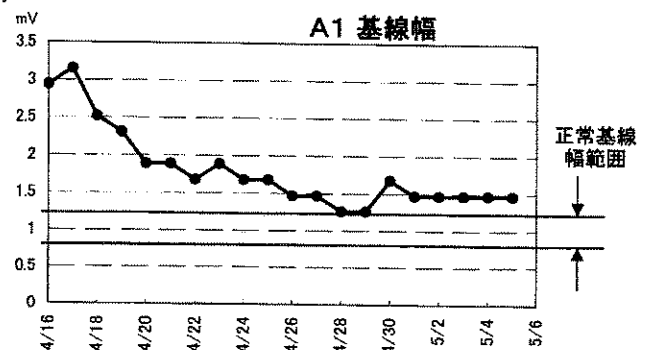
CH21前兆の終息を確認し (Tfap:Tmap=20:13) 経験式で計算予定

No.1778長期継続前兆は、右枠内のとおり、CH21特異が明確に継続出現中です。従って今月上旬時期を示す関係は否定されます。

前兆全体としては静穏化傾向にあり、秋田観測点のA1の基線幅増大(BT)も右グラフ推移のとおり、正常静穏時の基線幅に対し若干太い微弱BT状態です。唯一CH21の特異状態だけが顕著に継続出現中です。

本日 5/5現在、前兆が継続出現中であることは、4/9 初現認識が誤りであることを示します。次に考えやすいのは、前々前兆の極大認識3/31.5が初現である可能性。3/31.5初現~4/19-20 極大と仮定しますと、5/24±時期が計算できます。仮にこの仮定が正しい場合は、5/15±頃に前兆終息が確認されることとなります。但し、この仮定が正しくない可能性も十分に考えられますので、実際の前兆終息を観測確認し、経験式を使用して、今回の前兆群の示す日を求めたいと考えます。上にNo.1778前兆群の初現から現在迄の全体出現状況図を簡易的に示しました。現在が最終段階近くにある可能性も十分に考えられます。今後の変化を観測し続報予定です。

- CH17特異=現在正常
- △CH20特異=微弱
- △CH04特異=微弱
- CH34-BT =現在正常
- CH21特異=継続出現中
- △A1-BT =右グラフのとおり微弱継続出現中



- ◆推定領域: 右図太線領域内=大枠推定
斜線領域=可能性考え易い推定域
㊦ 斜線=参考推定領域
- ◆推定規模: M7.8±0.5
- ◆推定時期: 前兆終息確認後計算予定
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1
(又は午後6時±3)

